

「皇帝」、堂々たる出足、ブリリアントな響き、ダイナミックなやり取りの連合軍、心地よいアンサンブルにしっくり。コンチェルトの中では横綱格、高くそびえる山峰、ココはコウそしてソコはソウ、昔からアタマの中で何度もイメージ。挑みかかるアグレッシブ精神より、調和求めての大人の対応、穏健な佇まい安定感が支配、作曲家から暗黙の威圧。ピアニストとしては憧れ、一度は演奏してみたい作品なのか、そんなプレッシャーに奮い立ち楽しむ。

2楽章、思い描く世界に没頭、想定よりセンシティブ、繊細で絶え入る様なつぶやき。オーケストラとのひそひそ話がクローズアップ、丁寧だがホンワカ、あたたかさへのもたれ込み、ノープルなキリリ感は希薄。侵しがたい甘美なアトモスフェア、楽しそうに夢心地。30年程前にワープ。乙女を通り越し、夢見るティーンエイジャー、ヤタラメッポウの幼子までは遡らない、音楽の愉しさに目覚めての逞しいイマジネーション。最後は次楽章へのなだれ込む、いじいじオケとのやり取り、一発即発の時限爆弾待ち。

3楽章、満を持してのハイテンション、確信のノリノリ、堅実で明確なテクニック、的確で綻びなく緩急剛柔。しゃしゃり出ることのないピアノ、以前感じたドラクロワさんの「自由の女神」の様な、颯爽としたリーダーシップ的役割は希薄。無暗矢鱈に突っ走ることなく、自分のパートを確りと対応、作曲家へのリスペクト。(2020.2.14)

---

スッペ：騎兵隊序曲

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 5番 変ホ長調 Op.73「皇帝」

【指揮者】土井 浩

---